江崎雄治（国立社会保障・人口問題研究所）

第１報告は，1955年以降の都道府県間人口移動データに対して因子分析を行うことにより，大都市圏に関する集中因子の説明力が低下する一方，広域中心都市への流入が顕著となるなど，わが国における人口移動パターンが多極化の方向にあることを示した．

第２報告は，わが国における人口5,000人以上の島嶼を対象とし，性比，年齢別人口構成比，産業別の就業者数構成比などを変数として因子分析を行うことによって，計20の島についてそれらの類型化を試みた．

第３報告は，東京および大阪大都市圏（50km圏）内の国調地域メッシュ統計を，地理情報システム（GIS）を用いて分析することにより少子高齢化の波及過程を観察し，鉄道（郊外路線）沿線ごとに進度に差がみられることから，その要因を考察した．

このように，今回はいずれも地域人口の挙動に関する研究報告であった．発表者を含め出席者の多くが相互に関心を有するテーマであったこともあり，各報告において活発な質疑応答，意見交換が行われた．

(江崎雄治記)

日本地理学会2001年度春季学術大会

日本地理学会2001年度春季学術大会が2001年３月27，28日，敬愛大学（千葉県佐倉市）において開催された．口頭170件，ポスター43件の発表が行われ，人口関連分野についても多数の報告があった．主なものについて発表題目を紹介する．

「郊外地域の人口高齢化過程－横浜市泉区の事例」　伊藤慎悟（駒沢大学・院）
「ドイツにおける高齢者の居住に関する考察」　岩垂雅子（東京大学・院）
「東京大都市圏市区町村別の出生力地域較差」　田中恭子（埼玉大学）
「住宅価格と労働力移動の相互依存に関するモデル－イギリス1985-1998」
磯田　弦（東京都立大学・学振特別研究員）
「高校生の就職における組織的求人システムについて－女子就職者における西南九州と中京圏の結びつきから」　山口泰史（東京大学・院），江崎雄治（国立社会保障・人口問題研究所）
「関東平野における明治期メッシュ人口推定」　小池司朗（東京大学・院），荒井良雄（東京大学）
「ポーランドにおける都市からの人口流出現象」　中川聡史（神戸大学）

(江崎雄治記)

国際開発高等教育機構（FASID）による開発マネジメント研修

国際開発高等教育機構（FASID）による開発マネジメント研修の一環として，ヴィエトナムへの日本の援助事業の状況を視察してきた．現在，日本はヴィエトナムに対する最大の援助国であり，様々な形態の二国間援助を実施している．今回視察した開発プロジェクトはいろいろな分野に跨るが，人口・保健分野としてはチョーライ病院への技術協力プロジェクトやイエンバイ省子供の栄養改善プロジェクトの視察を行った．なかでも，ホーチミン市にあるチョーライ病院へのプロジェクト技術協力はきわめて成功した事例として知られている．チョーライ病院への技術協力の歴史は古く，1966年に